

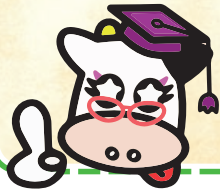
未来の私たちのために 気候変動に適応しよう

農 業 編

那須塩原市では、市民が「ここに住んでいれば安心」、
「ここに住んでいれば生き延びられる」と実感できるよう、
市民と一緒に気候変動適応の取り組みを推進しています。



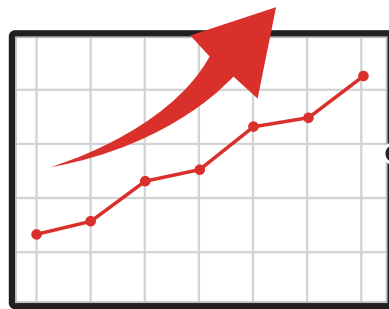
適応って何？



地球温暖化や異常気象など、既に起
こっている気候変動の影響に対処し、
被害を回避・低減していくこと。

那須塩原市の気候変動の現状と将来予測

- ・年平均気温は、10年当たり約0.3℃の割合で
上昇しており、今世紀末には4～5℃上昇する
と予測されています。
- ・気温の上昇による影響として、農作物の品質・
収量の低下、酪農では乳量や繁殖率の低下等
が懸念されています。



気候変動による影響は私たちの暮らしの様々なところに既に現れています。
地域の実情に合わせて、気候変動に早めに備えることが重要です。

一人一人ができることから 気候変動に適応しましょう

このリーフレットは、友好連携協定を結んでいる宇都宮大学と協力して行った
農業関係者へのヒアリング調査の結果をもとに、作成しました。(2021年3月作成)

那須塩原市気候変動対策局

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108-2
TEL 0287-73-5651 FAX 0287-62-7500 メール nccac@city.nasushiobara.lg.jp

気候変動への本市の
取組状況はこちらから



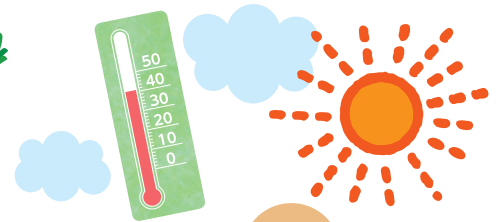
気候変動の影響

- (水稲) 高温障害による白未熟粒しろみじゅくりゅう、カメムシによる黒斑、長梅雨によるいもち病等が増加
- (アスパラガス) 暑さ、ヨトウムシの食害などによる奇形発生の増加
- (ホウレンソウ) 高温による品質の低下、ダニの越冬、雑草の増加、土壌病害の早期発生
- (トマト) 害虫発生増加による、薬剤散布回数の増加
- (キャベツ、キュウリ、ナス) 夏季の暑さによる、収穫量の減少
- (ナシ) 開花期の訪花昆虫の減少、着果の不揃い・小玉化、ダニの増加、みつ症の発生
- (イチゴ) 高温による花芽分化の遅れ、奇形果実・B級品の増加
- (キク) 暑さによる露心花ろしんかや葉焼けの増加。梅雨時期に発生する白サビ病が真夏にも発生
- (乳牛) 暑さによる乳量低下、食欲や免疫力の低下による疾病発生率の上昇
- (麦類) 播種適期の変化、登熟期の極端な高温による低収、品質低下
- (大豆) 播種時期の大雨による出芽障害と生育不良、収穫時期の高温による成熟むらの発生
- (雑草) 雑草の発生量や発生時期の変化、除草作業時間や回数の増加



地元農業関係者の声

- ・以前はお盆を過ぎると涼しかったが、最近では暑くなった。
- ・暖冬だが、急に寒くなり、霜害や凍害を受けることがある。
- ・病虫害発生が早期化・長期化している。
- ・局地的な豪雨が増えており、水稲の倒伏や野菜の冠水害の発生が多くなった。
- ・夏季は日中の作業が厳しく、熱中症等の作業者の健康面の不安が高い。
- ・夏の高温で作物の収量や品質が低下しやすくなった。



気候変動の影響により想定されるリスク

- ・夏季の高温による品質低下や病虫害発生の増加
- ・多雨に伴う収量や品質の低下
- ・暑熱ストレスによる乳牛の生産性の低下
- ・熱中症など農業者の健康面への影響
- ・これらの複合的な影響による経営の圧迫



気候変動の影響への適応策

- ・耐暑性の品目および品種への転換
- ・野菜や花き類の夏季のハウス栽培における換気、散水、細霧冷房
- ・病虫害の薬害抵抗性の把握と、新規農薬の導入や農薬のローテーションの実施
- ・栽培計画の見直し
 - ・播種時期、移植時期、収穫時期の見直し
 - ・病虫害や雑草の防除時期、回数の見直し
- ・農業者の健康管理
 - ・涼しい時間帯への作業時間の変更や休憩・給水時間の確保

